

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

児童発達支援

公表：令和2年2月28日

事業所名 生活クラブあのお家

保護者等数（児童数） 3

回収数 3

割合 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	3					
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	2	1			職員の方々については専門性にもとても恵まれており、ありがたいと思っております。欲を言えば男性の職員さんがいらっしやると関りによりバリエーションが広がると思います。	職員配置基準より多い職員数を配置しています。活動内容によってさらに手厚く配置するなど、臨機応変に対応しています。また、機能訓練士として言語聴覚士に加えて作業療法士を配置したことで、さらに専門性を生かした支援プログラムになるよう改善を進めています。ご意見をいただきました男性職員の配置につきましては常時募集をしています。福祉系の専門学校や大学の求人等への案内もお願いしておりますが、実現に至っていないのが実情です。今後も募集を継続してまいります。
	③	生活空間は本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	3					
	④	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか。	3					

適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	2	1			日頃より様々なプログラムを組み楽しく過ごさせていることに感謝しています。発音や記憶(位置に関して)、社会性を伸ばしていただきたいと思います。	管理者、児童発達支援管理責任者、言語聴覚士が子どもの発達状況、保護者のニーズをそれぞれの立場で把握・分析し、総合的に反映された計画となるよう作成しています。今年は作業療法士も加わったことでさらに感覚、運動面のアセスメントを行い、個別支援計画書により詳細に反映することで、支援内容を充実し、伝わりやすくなるよう改善を進めています。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、そのうえで、具体的な支援内容が設定されているか	2	1				「児童発達支援ガイドライン」に沿いながら事業所の特色を反映し、個々のお子様の発達特性と成長に合わせて必要な支援内容を設定しています。作業療法士と言語聴覚士が連携しながら、分析から個別課題のワークのプログラムを具体化し、段階を追って継続的に取り組めるよう進めています。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	2	1				首都大学東京大学院作業療法科学域小林教授にSVを受けながら進めてきました。今年作業療法士を配置できたことで、感覚と動作のアセスメントを導入し、より詳細なデータ分析をもとに支援の目的と具体的な内容が明確に設定できるように改善しました。常に計画を確認し、職員の共通認識・共通理解のもとで支援が実践できるようになっています。成長段階に沿ってステップアップしたり、スモールステップに変更しながら日々の振り返りでPDCAサイクルを意識して支援しています。
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	3					

⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもとの活動する機会があるか	1			2		利用児童は通所以外の曜日にはそれぞれ幼稚園・保育園に通園しているお子様ですので、日常的に障がいのない子どもとの活動の機会は確保されていると考えています。通所時のプログラムとしては近くの児童館を利用したり、公園で障がいのない子どもと接し、挨拶など声を掛け合ったり、遊具の貸し借りを通して、コミュニケーションを経験する機会をつくっています。今後は、外出プログラムで保育園や幼稚園を訪問し、園庭開放などで連携していく計画です。
⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	3					
⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	3					
⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）が行われているか	1	2				電話や送迎時にお話を伺ったり、面談での相談などご家族に支援に努めていますが、ペアレント・トレーニングプログラムは実施できておりません。 発達障がいについての知識と支援方法について学ぶ機会として、明星大学教授の星山麻木氏を迎えて「発達サポーター育星講座」を2019年度は3回開催しました。保護者の方々へもお知らせし、参加していただいています。 職員の学びのための書籍を保護者の方にも貸し出しています。当事者の保護者（お母さん）が会員となって活動されている「心育」のパンフレットを置いて紹介しています。今後は作業療法士、言語聴覚士による個別支援の組み立てと合わせて家族支援の機会を確保していく計画です。
⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康な発達の状況、課題について共通理解ができているか	2	1				

保護者への説明等	⑭	定期的に保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	2			1	通所の登所・降所の時にお話したり、電話等でいつでも話しやすいよう心掛けております。専門分野について相談時間の確保が必要な場合は言語聴覚士、作業療法士が対応できるよう調整を行って参りますので、お気軽にお声掛けください。
	⑮	父母の会活動の支援や、保護者会等の開催時により保護者同士の連携が支援されているか	2			1	まだ利用者が少なく父母の会の活動はありませんが、ご希望があれば積極的にご支援できるよう努めます。 家族交流の機会として生活クラブ協同村（キャンプ場）で流しそうめんやスイカ割りを企画・実施いたしました。またお顔合わせとおやつの試食を兼ねての家族交流会を開催しました。 保護者の皆様の連携につながるように、定期的に参加しやすい機会を開催してまいります。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	3				
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	3				
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	2			1	SSTの日程が確認できなかつたことがあるので、何か確実な伝達手段があると大変助かります。 行事や活動予定等のお知らせが行き届かず、直前になってしまうなど大変ご迷惑をおかけしております。現在の連絡帳（サービス提供記録）を記録しやすいものに見直してまいります、またホームページや会報、メール配信も活用しながら、複数の手段で活動概要や行事予定について正確にお知らせできるよう改善してまいります。

	⑱	個人情報の取扱いに十分注意されているか	3				事務所内の鍵付き書庫を設置して全ての個人情報ファイルを保管しています。使用後の施錠、営業終了時には事務所の出入口も施錠するなど十分注意して取り扱っています。写真撮影や掲載等、個人情報に関わる部分については事前に保護者の方々に説明・同意を書面でいただいています。破棄する書類はシュレッダー処理をしています。
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	2	1			各マニュアルは策定し、順次訓練を実施してきました。保護者の方々が手に取りやすいよう図書棚に設置いたします。応急手当WEB講習を施設として開催し、消防職員の方を講師として小児と乳児の心肺蘇生とAED操作を学んでいます。防犯訓練は多摩警察の協力をお願いし、これからの実施を予定しています。その他、送迎車の運転手は法人が開催する安全運転講習並びに路上運転講習を受講するよう義務付けています。非常警報装置や消火器の定期点検は専門業者に委託し行っています。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	1	1		1	施設全体としては消防署のご指導をいただきながら消火訓練及び避難訓練を実施いたしました。また消防署防災担当職員の方を講師に迎え「水害等の避難訓練時の着眼点について」をテーマに研修を行い、洪水時の避難確保計画を策定しています。地震、火災、水害を想定した避難訓練・通報訓練などは職員向けと子どもたちと一緒に訓練も合わせて6回実施してきました。消火器点検を年1回行っています。またMCA無線を施設に設置し、法人全体として月1回の安全確認の訓練と常勤職員は携帯での安否確認訓練を行っています。
	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	3				お子様が通所を楽しみにしていただき大変うれしく思っております。お子様の困り感や成長、新たな一面を発見し、それらが私たち職員の自己研鑽の意欲につながっています。職員ひとり一人がお子様の様子から多くのことを学んでいると日々実感しています。

満足度	⑳	事業所の支援に満足しているか	2	1			<p>お子様の発達状況を詳細に分析できるよう、専門ツールを導入いたしました。その分析を裏付けるためには日々の関りの中での変化を見逃さない職員の確かな目(感覚)こそが重要と考えています。職員の専門性を常に高め、日々努力を重ねてまいります。お子様の笑顔と成長が私たちの励みです。</p> <p>保護者の皆様のご協力があつてこそ、お子様が通ってくださっていることに感謝の気持ちを忘れることなく、自己研鑽を重ね、支援の質を深めていけるよう努力を重ねて参ります。</p>

○この「保護者等からの事業者評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。